

ユビキタスセンサーによる調理支援システム

中内靖

筑波大学

ロボットが台所において調理をサポートしてくれる。誰もが一度は夢見た未来予想図が実現されようとしている。

「ユビキタスセンサーによる調理支援システム」はICタグとセンサーとモニター、そしてロボットが連動して料理の手助けをしてくれる画期的なシステムだ。

このシステムでは、センサーが食材に取り付けられたICタグや調理者の行動を認識して、ロボットが食材や調理器具の場所を覚えてくれる。その上で、コンピュータが覚えた料理法と調理手順をモニターに表示し、傾合を見計らって逐次ロボットが指示を出してくれるのだ。

これにより、たとえば留守番中の

子どもがひとりでもカレーを作ろうと思った時に、母親の調理方法そのままのカレーを作ることができる。また、そのデータが頒布されれば、名料理人のレシピを忠実に再現することも可能になる。もちろん、料理の苦手な主婦のサポートに大いに役立つことはない。

ほかにも携帯電話や腕時計を使って、外で食した物や運動量のデータをコンピュータに入力することで、その日の健康状態に適した料理を提案してくれるようになるという。

現在、このシステムの一部は大手住宅設備会社との共同開発で商品化が進められている。

「いつでも、どこでも、誰にでも」その技術の恩恵を受けることのできる「ユビキタス社会」はもう間近まで迫っている。



調理支援ロボットと中内助教授